

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072900303		
法人名	社会福法人 長生会		
事業所名	グループホーム美鈴ヶ丘		
所在地	福岡県小郡市三沢5430 (電話) 0942-75-3903		
自己評価作成日	令和 5 年 5 月 16 日	評価結果確定日	令和 5 年 8 月 7 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

隣接するケアハウス小郡、小郡みすずの森保育園があり、交流が盛んにおこなわれています。また、敷地内の庭には地域の方が桜を観に来られ誰でも立ち寄りやすい環境になっています。  
全職員で個別ケアに力をいれています。役割を持ってその人らしい生活を続けて「ここで良かった」と言って頂けるように、本人らしい生活とは何かを考え実践しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 6 月 23 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

郊外の閑静な住宅街の近隣にあり、広い敷地内には同法人のケアハウスや保育園があり、ケアハウスに園児の作品を展示したりと日頃から入所者や園児との交流を行っている。玄関前にある桜が見頃の時期には地域の方が花見に来られ、利用者と一緒に楽しまれている。利用者と一緒に野菜を育て、収穫した野菜を調理し、旬の滋味を楽しんでいる。買い物や外出など利用者の個別の希望には臨機応変に対応を行っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り後に全職員にて理念を唱和して理念の共有を図っている。また、ミーティング時に管理者が理念について話す時間を作り、チームで同じ方向を向いてケアが実践できるように取り組んでいる。	開設時より掲げている地域密着の視点がある事業所独自の理念がある。朝の申し送りの時に唱和を行い、理念を共有し、実践に向けて利用者への傾聴や声かけ、話し方に配慮するなど日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が地域活動（認知症サポーター養成講座、地域主催のSOS訓練手伝い、小郡三井医師会主催の勉強会参加、司会など事業所として地域交流している。	町内会に加入し、コロナ禍前は清掃活動や夏祭りに利用者と一緒に参加したり、事業所で行う和太鼓慰問に地域の方や子供達の参加があったり、中学生の職場体験の受け入れを行ったりしている。保育園児が散歩で事業所前を通る時は、利用者も出てきて楽しんでいる。地域行事への参加や職員へ認知症の出前講座の依頼をされたりすることもある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方向けに認知症の理解について講座依頼がある。小学生向け、看護学生向けの認知症サポーター養成講座依頼を受け協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて運営推進会議を書面にて実施しており、意見、アドバイスは出ていないが、書面を出すことでサービス向上に繋がられるように考えている。6月からは対面での会議を予定している。	2ヶ月に1回、家族や町内会長、民生委員、老人クラブ代表者、市介護保険課、法人会長、ケアハウス施設長で運営推進会議を行っており、サービス状況やヒヤリハット、事故報告、評価の実施予定等を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から行政とは繋がりがあり、事業所として分からないことは長寿支援課に尋ね、地域参加については地域小郡市包括支援センターから依頼が来ている。また、キャラバンメイトとしても活動をしている。	市介護保険課の窓口に出向いたり電話する等して、運営に関する問題や成年後見制度に関する相談を行っている。医師会や地域包括支援センターから講座を依頼されており、行政との協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、各居室の窓・扉等の施錠はしていない、また、ベッド柵、安全ベルトなどの身体拘束は行っておらず、ご家族にも身体拘束をしないことを説明し理解して頂いている。職員に関しても権利擁護について管理者よりミーティング、朝の申し送りなどで常に周知している。	日中、玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、付き添いを行っている。地域には運営推進会議で理解を求め、連絡してもらえる関係を築いている。身体拘束の資料を回覧し内部研修を行っており、マニュアルを準備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、管理者より常日頃から周知している。また、個別に職員と話すことで虐待に繋がらないように、職員の不適切ケア、職員のストレスが軽減する内容などを話している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業、成年後見制度について内部研修を実施し指導職以上は説明出来る知識と、資料を誰でも見る事が出来るように玄関前に置いている。	必要時に家族に対して成年後見制度のパンフレットを用いて説明している。成年後見制度の外部研修に参加し、資料を回覧し、内部研修を実施している。パンフレットや研修記録があり、制度を活用できるように支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書については、分かり易く説明し十分理解して入居して頂いている。また、不安や疑問点が後から出てきた場合にはいつでも電話にて対応できる事も伝えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍にて家族会などは実施していないが、面会に来られた時や、職員が電話にて話す機会がある時は、ご要望が無いかなども話をし運営に反映している。毎月の実施と評価報告を行い施設での生活状況を報告している。また、お便りに異動してきた職員の紹介を写真付きで行っている。	管理者や職員は日常的に利用者とコミュニケーションを図り、利用者が話をしやすい時間帯を選んだりして思いを聴くようにしている。畑で野菜を作りたいと利用者・家族からの要望にも対応する等、利用者・家族の意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを重要視し、職員からの意見を聞く、職員からの意見に対して実行し職員の役割を活かし働く意欲を確保している。	管理者と職員が話し合い自己評価に取り組んでいる。管理者は日頃から職員に声を掛け話しやすい雰囲気を作り、意見を言いやすいように工夫している。記録物の改善やドアや車いすの修理など直ぐに対応し、職員の意見を取り入れて運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の勤務状況を把握する事により、業務改善案を出し、職員の労働環境を変化させ働きやすい環境作りに努めている。その為にも、職員からの意見を聞くようにコミュニケーションを重視している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人は、性別、年齢等を理由に採用対象から排除せず、能力にあった事業所、仕事内容を常に検討する事で、やりがいがある職場にしている。	採用にあたっては、年齢や性別等を理由に採用対象から排除していない。パートから正職員になったり、法人内の他事業所への異動希望も対応したり、定年後は嘱託として継続で就労でき、職員が働きやすい環境作りを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人・管理者は常に入居者の人権を尊重するように認知症の人として見るのではなく、その人として接するように、関わるように伝え勉強会も実施している。	外部研修で権利擁護研修を受講した際に人権研修も受け、資料を回覧し、内部研修を行っている。研修資料や研修報告書は残されていない。	研修を実施した際は、研修報告書を残してほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人をアセスメントしながら個々にあった育成をしている。また、内部研修、外部研修を受けてもらい職員の育成に繋げている。また、外国人の職員も在籍している為、外国人を全職員で育成する事で、全職員の成長に繋がると考えている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を受講すること、医師会主催の勉強会に参加するなど同じ職種の間と話ができる機会を作ることで、知識を向上させ、自施設で実践できるように取り組んでいる。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してから不安が多く生活されると考え、多くのコミュニケーションを図ることで、信頼関係を築くようにして、何か気づきがある場合には記録にとるなどして全職員で情報共有し安心できる生活に繋がれるように努力している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対して、近況報告をし、日常生活の写真をみて頂く事により、生活状況を把握して頂いている。また、ご家族とのコミュニケーションでご家族の要望にも耳を傾け実践することで信頼関係作りを構築している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の想いを聞けるように本人とのコミュニケーション、共感、信頼関係を大切にしています。また、家族とのコミュニケーションを大切に家族の役割を見つけ、本人様ご家族が安心できる環境を提供する事で今必要なケアがみえ実践している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様が役割を持って生活できるように、さりげない支援をしながら、入居者様の生きがいを大切にしています。時には、職員の為にしていると思えらるる関りを実践する事で、できる事の継続、達成感、やる気に繋げています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活状況をご家族に報告、本人様の願いを伝えたりと職員だけでケアするのではなく、ご家族にしかできない事を協力して頂く事で共に良い関係性を保っています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの場所をドライブする。馴染みの人と電話できるなどコロナ禍でもできる対応をすることで関係性が途切れないように支援しています。	馴染みの人や場所について、利用者や家族から聴取して把握している。知人と電話したり、年賀状を出す等、支援している。また、馴染みの場所に家族と行かれたりしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が話しやすい環境作り、職員が中に入り一緒に会話する、テレビにYouTubeが映し出されるようにしてみんなで懐かしい歌を歌うなど関わり合いが出来る仕組みを作っています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後でもいつでも相談しやすい信頼関係を入居の時から作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者個人個人とのコミュニケーションを大切に、何気ない会話から希望、意向を聞き取れるようにしています。また、希望、意向が困難な方に関しては、ご家族から情報を聞き出す、面会者から情報を聞き出す等しています。また、情報収集としてアセスメントシート、ひもときシートの活用が出来るように勉強会を実施している。	日常生活の中でゆっくり対話する時間が持てている。夜間に利用者自ら話に来ることもあり、思いや希望等の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、家族・関係者等から情報を得たり、利用者の表情や行動から思いを推察する等、その背景を考え、利用者中心にケアをしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴、馴染みの暮らし方などを本人、ご家族から聞き取ること、居室には使い慣れた家具などおいて頂きこれまでの生活と変わらないように支援しています。花が好きな方は部屋から花が見える環境を作ったりしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人をアセスメントする事で出来ること、出来ないこと、したいこと、したくないことなどを把握し、本人が納得いく生活ができるようにさりげない支援をしています		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにて本人らしい生活とは何かを計画作成担当者が中心に話し合うことで、本人のニーズ、ニーズに対しての認知症ケアをチームで考え作成している。	ケアプランは3ヶ月に1回、また必要時に見直しをしている。居室担当者、計画作成担当者、ユニット全体でチームで考え作成している。認知症の行動・心理症状について、ひもときシートを活用し、ケアプランに繋げている。また、作成時は家族、利用者の意向の確認を行い、医師からの助言をもらい、一人ひとりに合った計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づき（他職員と情報共有したいこと）を生活記録や、申し送りノートを活用し情報共有している。また、必要に応じてケア内容を評価し介護計画の見直しに活かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族のニーズにおいて、急な外出、買い物、通院など柔軟に動けるように管理者、指導職が中心となって実現している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として傾聴ボランティアの方とリモートで話をする等生きがいを持ってもらう、外に職員と好きな物を買う物に行くなど地域資源を活用しながら暮らしを楽しんでもらっています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、馴染みのある医師による受診もできることを伝えているが、現在、入居者18名は月2回往診に来て頂く先生に診て頂いている。主治医より外科、皮膚科、眼科等の指示がある場合には、ご家族と共に職員が同行したり、ご家族対応、職員対応など臨機応変に対応している。	利用開始時にかかりつけ医の希望を確認している。今までのかかりつけ医を希望する場合は、家族と協力しながら対応をしようにしている。病院へ送迎、乗降介助等必要時に事業所から車を出している。他科受診が必要な時も同様の支援を行い、職員が同行をすることもある。受診後は受診報告を家族、事業所相互に行って情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH看護職員は、日々入居者の状態を把握しており、介護職員に的確な指示を出し、入居者の方に対して適切な対応ができる体制を作っています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院のソーシャルワーカーと情報共有を随時実施している為、信頼関係の構築も出来ており、本人、ご家族とも安心できる体制作りをしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては、主治医に相談しながら、ご家族に事前確認書の説明と記入をして頂く、事業所で出来る看取り介護について説明している。チームで看取り介護ができるように看取りに関する資料を回覧するなど、看取り介護ができる体制を作っている。	重度化、急変が考えられる時に、事前確認書・看取り介護に関する説明を行い、同意書を取るようにしている。看取りの理念・看取り介護の実施とその内容は明文化しており、契約時等に家族・利用者へ説明している。R5年3月に看取りに関する研修を数人が受講し、資料を回覧している。家族・利用者の意向を大切に、関係者とカンファレンスを行い、情報を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変対応については、内部研修を実施、マニュアルを作成し誰でも対応できるように体制を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、年2回消防立ち合いと、自主にて避難訓練を実施している。隣接する事業所にも参加を促している。自然災害についてはマニュアルを作成している。隣接するケアハウスとの情報共有をしている。備蓄品に関しては、ケアハウス内に備蓄されているのでグループホーム備蓄できるように調整している。	災害に対応するため、火災時マニュアル・事業継続計画を作成している。年2回、昼間・夜間想定訓練を実施し、内1回は消防署に立ち合ってもらっている。非常用備蓄品に関しては、同法人別建物に備蓄されている。	災害時に孤立した場合を想定して、事業所内に食料品や備品の準備をお願いしたい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しては、内部研修だけでなく、日頃から管理者より申し送り、実践の現場などで助言をすることで、チームで考える体制を作り人格の尊重、プライバシーの確保をしている。	プライバシー保護についての内部研修を実施し、日々の生活の中で管理者が気づいた時は指導を行い、人格の尊重、プライバシー保護に配慮している。排便失敗時に利用者に対する対応はもとより、職員間で大きな声で他の利用者に分かるような会話をしないようにしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が自己決定できるような声掛け、対応を常に考えている。飲み物に関しても好みのものを選んで頂く、冷たい飲み物がよいのか温かいもの良いのかなども選んで頂く工夫をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様とのコミュニケーションを大切に、何をしたいか、どう過ごしたいかなどを聞く事により一日をその人らしく生活できるように支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては、出来ること、出来ないことを把握する事で、さりげなく支援をしている。また、出かける際には本人様と洋服を選んで出かける等オシャレができる環境を作っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から食べたい物などを聞き取り、不定期ではあるが、食べたい物を職員と一緒に買いに行くなどを実行している。天気の良い日には外で食べる等工夫している。食事以外においてもお菓子作り、食べたい物を買いたいなどを実施し、楽しく食べられるように工夫している。	職員は、一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら食事が楽しみなものになるよう工夫している。利用者へ後片づけでお盆を拭いてもらったり、調理時に味見をしてもらって味付けの工夫をすることもある。畑で作っている大葉を収穫して天ぷらにしたり、アイスクリームと一緒に作ったりしている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理として、法人の栄養士と一緒に食材検討を実施している。また、施設内では入居者様の状態を把握し摂取量の把握をおこない個人個人にあった支援をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態を把握しているので毎食後、声掛け、介助にて口腔内の清潔を維持している。また、必要な方は、定期的に歯科医師に診て頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレにて排泄できるように職員で状態把握をしている。また、リハビリパンツで入居された方に関しては、時々失禁が観られていたが、職員が状態を把握する事で、布パンツに変更した事例もある。布パンツに変更したことで自らの上げ下げがスムーズに出来るようになった。	排泄チェック表を作成して一人ひとりの排泄パターンを把握し、行動や素振りなどサインを見逃さずに声掛け誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツに改善された利用者もいる。意思疎通が困難な利用者については、時間を見計らって誘導を行い利用者の尊厳が守られるように配慮しながら行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にて身体を動かす時間を作ることで、食物繊維をとって頂くように調理で工夫している。薬の副作用などにおいては主治医、看護師に相談し対処しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は一人一人無理強いせず、楽しくリラクセスして頂き入浴できる声掛け、環境作りをしている。毎日、時間を決めず入浴できる環境を作っている。	入浴は、利用者の希望により毎日入れる体制になっている。1対1でゆっくり入浴をしてもらい、会話をしたり歌ったりしながら楽しんで入浴されている。必要時に応じて2人介助も行っている。入浴を望まない利用者には、なぜ入浴を嫌がるのかその背景を考え、入浴が上手くできたときはその状況を職員間で共有している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファで過ごして頂いたり、自席で過ごして頂いたり、椅子に座ったりと落ち着く場所を提供している。昼食後は昼寝をするなども個々にあったケアをしている。夜間安心して寝て頂けるように、眠れない方には傾聴、飲み物提供などすることで安心できる支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、外部の薬剤師をお願いをしている。また、職員は、薬チェック表を準備、把握している為、個別に薬の内容の把握、副作用の把握をしながら服薬支援をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方と十分にコミュニケーションをとり、ご家族から情報をもらい、役割を持って楽しく、安心して生活が出来るように支援しています。職員が、役割を押し付けるのではなく、職員の為にしてあげているという気持ちになるような関りも工夫している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族の希望を聞きながら、個別でドライブに出かける、人がいない時間を見て買い物に行く、行きたい場所に行くなどコロナ禍でも出来る支援を工夫しながら実行している。	週3～4回、散歩をしている。また、利用者の希望に応じて職員と1対1で外出ができています。小学生の田植え体験の見学へ行ったり、買い物希望がある時も店へ一緒に出かける等、一人ひとりの希望に応じて支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける際には、バックを持って頂き、会計では自らお金を出してもらうなど支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人の方に電話したい時には、施設の電話を使って頂いたり、入居前から携帯電話を持っている方は、入居後も使用して頂くなど工夫をしている。手紙が書きたいなど希望があると書いて頂き一緒にポストに出す等支援をする予定である。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所フロアは皆さんが過ごしやすいソファの配置、テレビの配置を考えている。廊下に関しても安全に通れるように環境を整えている。トイレに関しても使い勝手が良いように環境を工夫している。フロア横に台所があるので、食事を作る音、においなど感じてもらえるようにしている。室内の明るさ、温度等も常に気配りをすることで入居者様中心の環境となっている。	共用の空間は、ソファ・テーブルの間隔を空けて配置し、一人でゆっくり過ごせるように配慮している。また、利用者の希望により、どこからでもテレビを見れるよう工夫している。一人になりたい時も人の気配を感じつつ、静かに過ごせる場所があり、職員は常にさりげなく見守りをしている。壁には書道、折り紙、季節の作品が飾られている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテーブルの場所が視界に入らないので、好きな場所で一人でゆっくり過ごすこともできる。また、気の合った入居者様同士で話ができるように好きな場所に座って頂けるように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居前から使用していたもの、入居後本人様が使いやすいような配置を本人、ご家族、職員で考え配置している。また、入居後も本人様が必要な物は自宅から持ってきて頂くなど居心地が良い環境を作っている。	居室は、間取りが様々で、和室や和室風のクロス等がある。使い慣れたタンスや鏡台、家族写真、利用者手造りのクッション、仏壇などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様が歩きやすいように居室内に平行棒を設置し歩ける環境を作り、机を置く事で歩ける環境を作る。見やすい目の高さに時計を設置する等生活しやすい環境を作っている。また、くつろげる環境にて立ち上がりやすいソファを設置するなど工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り後に全職員にて理念を唱和して理念の共有を図っている。また、ミーティング時に管理者が理念について話す時間を作り、チームで同じ方向を向いてケアが実践できるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が地域活動（認知症サポーター養成講座、地域主催のSOS訓練手伝い、小郡三井医師会主催の勉強会参加、司会など事業所として地域交流している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方向けに認知症の理解について講座依頼がある。民生委員向け、小学生向け、看護学生向けの認知症サポーター養成講座依頼を受け協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて運営推進会議を書面にて実施しており、意見、アドバイスは出ていないが、書面を出すことでサービス向上に繋がられるように考えている。6月からは対面での会議を予定している。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から行政とは繋がりがあり、事業所として分からないことは長寿支援課に尋ね、地域参加については小郡市包括支援センターから依頼が来ている。また、キャラバンメイトとしても活動をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、各居室の窓・扉等の施錠はしていない、また、ベッド柵、安全ベルトなどの身体拘束は行っておらず、ご家族にも身体拘束をしないことを説明し理解して頂いている。職員についても権利擁護について管理者よりミーティング、朝の申し送りなどで常に周知している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、管理者より常日頃から周知している。また、個別に職員と話すことで虐待に繋がらないように、職員の不適切ケア、職員のストレスが軽減する内容などを話している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業、成年後見制度について内部研修を実施し指導職以上は説明出来る知識と、資料を誰でも見る事が出来るように玄関前に置いている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書については、分かり易く説明し十分理解して入居して頂いている。また、不安や疑問点が後から出てきた場合にはいつでも電話にて対応できる事も伝えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍にて家族会などは実施していないが、面会に来られた時や、職員が電話にて話す機会がある時は、ご要望が無いかなども話をし運営に反映している。毎月の実施と評価報告を行い施設での生活状況を報告している。また、お便りに異動してきた職員の紹介を写真付きで行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを重要視し、職員からの意見を聞く、職員からの意見に対して実行し職員の役割を活かし働く意欲を確保しています。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の勤務状況を把握する事により、業務改善案を出し、職員の労働環境を変化させ働きやすい環境作りに努めている。その為にも、職員からの意見を聞くようにコミュニケーションを重視している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人は、性別、年齢等を理由に採用対象から排除せず、能力にあった事業所、仕事内容を常に検討する事で、やりがいがある職場にしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人・管理者は常に入居者の人権を尊重するように認知症の人として見るのではなく、その人として接するように、関わるように伝え勉強会も実施している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人をアセスメントしながら個々にあった育成をしているまた、内部研修、外部研修を受けてもらい職員の育成に繋げている。また、外国人の職員も在籍している為、外国人を全職員で育成する事で、全職員の成長に繋がると考えている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を受講すること、医師会主催の勉強会に参加するなど同じ職種の仲間と話ができる機会を作ることで、知識を向上させ、自施設で実践できるように取り組んでいる。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してから不安が多く生活されると考え、多くのコミュニケーションを図ることで、信頼関係を築くようにして、何か気づきがある場合には記録にとるなどして全職員で情報共有し安心できる生活に繋がられるように努力している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対して、近況報告をし、日常生活の写真をみて頂く事により、生活状況を把握して頂いている。また、ご家族とのコミュニケーションでご家族の要望にも耳を傾け実践することで信頼関係作りを構築している。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の想いを聞けるように本人とのコミュニケーション、共感、信頼関係を大切にしています。また、家族とのコミュニケーションを大切にし家族の役割を見つけ、本人様ご家族が安心できる環境を提供する事で今必要なケアがみえ実践しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様が役割を持って生活できるように、さりげない支援をしながら、入居者様の生きがいを大切にしています。時には、職員の為にしていると思えられ、関わりを実践する事で、できる事の継続、達成感、やる気に繋がっています。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活状況をご家族に報告、本人様の願いを伝えたりと職員だけでケアするのではなく、ご家族にしかできない事を協力して頂く事で共に良い関係性を保っています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの場所をドライブする。馴染みの人と電話できるなどコロナ禍でもできる対応をすることで関係性が途切れないように支援しています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が話しやすい環境作り、職員が中に入り一緒に会話する、テレビにYouTubeが映し出されるようにしてみんなで懐かしい歌を歌うなど関わり合いが出来る仕組みを作っています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後もいつでも相談しやすい信頼関係を入居の時から作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者個人個人とのコミュニケーションを大切にし、何気ない会話から希望、意向を聞き取れるようにしています。また、希望、意向が困難な方に関しては、ご家族から情報を聞き出す、面会者から情報を聞き出す等しています。また、情報収集としてアセスメントシート、ひもときシートの活用が出来るように勉強会を実施している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴、馴染みの暮らし方などを本人、ご家族から聞き取ること、居室には使い慣れた家具などおいて頂きこれまでの生活と変わらないように支援しています。花が好きな方は部屋から花が見える環境を作ったりしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人をアセスメントする事で出来ること、出来ないこと、したいこと、したくないことなどを把握し、本人が納得いく生活ができるようにさりげない支援をしています		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにて本人らしい生活とは何かを計画作成担当者が中心に話し合うことで、本人のニーズ、ニーズに対しての認知症ケアをチームで考え作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づき（他職員と情報共有したいこと）を生活記録や、申し送りノートを活用し情報共有している。また、必要に応じてケア内容を評価し介護計画の見直しに活かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族のニーズにおいて、急な外出、買い物、通院など柔軟に動けるように管理者、指導職が中心となって実現している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として傾聴ボランティアの方とリモートで話をする等生きがいを持ってもらう、外に職員と好きな物を買物に行くなど地域資源を活用しながら暮らしを楽しんでもらっています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、馴染みのある医師による受診もできることを伝えているが、現在、入居者18名は月2回往診に来て頂く先生に診て頂いている。主治医より外科、皮膚科、眼科等の指示がある場合には、ご家族と共に職員が同行したり、ご家族対応、職員対応など臨機応変に対応している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH看護職員は、日々入居者の状態を把握しており、介護職員に的確な指示を出し、入居者の方に対して適切な対応ができる体制を作っています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院のソーシャルワーカーと情報共有を随時実施している為、信頼関係の構築も出来ており、本人、ご家族とも安心できる体制作りをしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては、主治医に相談しながら、ご家族に事前確認書の説明と記入をして頂く、事業所で出来る看取り介護について説明している。チームで看取り介護ができるように看取りに関する資料を回覧する、ミーティングにて話をする時間を作るなど、看取り介護ができる体制を作っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変対応については、内部研修を実施、マニュアルを作成し誰でも対応できるように体制を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、年2回消防立ち合いと、自主にて避難訓練を実施している。隣接する事業所にも参加を促している。自然災害についてはマニュアルを作成している。隣接するケアハウスとの情報共有をしている。備蓄品に関しては、ケアハウス内に備蓄されているのでグループホーム備蓄できるように調整している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しては、内部研修だけでなく、日頃から管理者より申し送り、実践の現場などで助言をすることで、チームで考える体制を作り人格の尊重、プライバシーの確保をしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が自己決定できるような声掛け、対応を常に考えている。飲み物に関しても好みものを選んで頂く、冷たい飲み物がよいのか温かいものが良いのかなども選んで頂く工夫をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様とのコミュニケーションを大切にして、何をしたいか、どう過ごしたいかなどを聞く事により一日をその人らしく生活できるように支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては、出来ること、出来ないことを把握する事で、さりげなく支援をしている。また、出かける際には本人様と洋服を選んで出かける等オシャレができる環境を作っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から食べたい物などを聞き取り、不定期ではあるが、食べたい物を職員と一緒に買いに行くなどを実行している。天気の良い日には外で食べる等工夫している。食事以外においてもお菓子作り、食べたい物を買に出るなどを実施し、楽しく食べられるように工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理として、法人の栄養士と一緒に食材検討を実施している。また、施設内では入居者様の状態を把握し摂取量の把握をおこない個人個人にあった支援をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態を把握しているので毎食後、声掛け、介助にて口腔内の清潔を維持している。また、必要な方は、定期的に歯科医師に診て頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレにて排泄できるように職員で状態把握、記録をつけており、ミーティングにて布パンツが良いのか、リハビリパンツがよいのか、本人様の状態と、安心感を考え話し合っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にて身体を動かす時間を作ること、食物繊維をとって頂くように調理で工夫している。薬の副作用などにおいては主治医、看護師に相談し対処しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は一人一人無理強いせず、楽しくリラックスして頂き入浴できる声掛け、環境作りをしている。毎日、時間を決めず入浴できる環境を作っている。入浴したくないと言われる方に関しては、時間をずらす、他職員が声をかける、何故嫌なのかをミーティングで考えるなど工夫している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファで過ごして頂いたり、自席で過ごして頂いたり、椅子に座ったりと落ち着く場所を提供している。昼食後は昼寝をするなども個々にあったケアをしている。夜間安心して寝て頂けるように、眠れない方には傾聴、飲み物提供などすることで安心できる支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、外部の薬剤師にお願いをしている。また、職員は、薬チェック表を準備、把握している為、個別に薬の内容の把握、副作用の把握をしながら服薬支援をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方と十分にコミュニケーションをとり、ご家族から情報をもらい、役割を持って楽しく、安心して生活が出来るように支援しています。職員が、役割を押し付けるのではなく、職員の為にしてあげているという気持ちになるような関りも工夫している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族の希望を聞きながら、個別でドライブに出かける、人がいない時間を見て買い物に行く、行きたい場所に行くなどコロナ禍でも出来る支援を工夫しながら実行している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける際には、バックを持って頂き、会計では自らお金を出してもらうなど支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人の方に電話したい時には、施設の電話を使って頂いたり、入居前から携帯電話を持っている方は、入居後も使用して頂くなど工夫をしている。手紙が書きたいなど希望があると書いて頂き一緒にポストに出す等支援をする予定である。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所フロアは皆さんが過ごしやすいソファの配置、テレビの配置を考えている。廊下に関しても安全に通れるように環境を整えている。トイレに関しても使い勝手が良いように環境を工夫している。フロア横に台所があるので、食事を作る音、においなど感じてもらえるようにしている。室内の明るさ、温度等も常に気配りをする事で入居者様中心の環境となっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテーブルの場所が視界に入らないので、好きな場所で一人でゆっくり過ごすこともできる。また、気の合った入居者様同士で話ができるように好きな場所に座って頂けるように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居前から使用していたもの、入居後本人様が使いやすいような配置を本人、ご家族、職員で考え配置している。また、入居後も本人様が必要な物は自宅から持ってきて頂くなど居心地が良い環境を作っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様が歩きやすいように居室内に机を置く事で歩ける環境を作る。見やすい目の高さに時計を設置する等生活しやすい環境を作っています。また、くつろげる環境にて立ち上がりやすいソファを設置するなど工夫をしています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		